

**農山漁村を支える地域運営組織事例集**  
**－農林漁業の振興と地域コミュニティの維持に向けて－**

令和3年3月

**農林水産省**

## はじめに

農山漁村地域では、都市部に先駆けて人口減少や少子高齢化が進行しており、担い手不足などによる農林漁業の衰退に加えて、商店やガソリンスタンドの撤退、公共交通機関や役場機能の縮小などにより将来の生活に不安を抱えている地域が多くあります。

一方で、地域住民が主体となり、農林漁業等の産業振興や生活支援等の様々な活動を行うための組織を立ち上げ、地域活性化を図りつつ、地域コミュニティを維持する取組を行っている事例が全国に存在します。

こうした取組を持続的に行う体制は「地域運営組織」と呼ばれ、農林水産省では関係府省と連携しながら、地域運営組織の形成等を通じた地域を持続的に支える体制づくりを進めています。本事例集はその一環として、全国の様々な農山漁村地域の持続性確保に向けた地域運営組織の取組を紹介するものです。

# 目 次

|                                 |    |                              |    |
|---------------------------------|----|------------------------------|----|
| 掲載事例の主な取組及び特徴                   | 1  | 株式会社 川西郷の駅 (広島県 三次市)         | 31 |
| 掲載事例の分類                         | 3  | 川根振興協議会 (広島県 安芸高田市)          | 33 |
| 1 NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会 (北海道 鶴居村)  | 5  | 地域協同組合無茶々園 (愛媛県 西予市)         | 35 |
| 2 高松第三行政区ふるさと地域協議会 (岩手県 花巻市)    | 7  | 株式会社 大宮産業 (高知県 四万十市)         | 37 |
| 3 NPO法人 きらりよしじまネットワーク (山形県 川西町) | 9  | 田舎の体験交流館さんがうら運営委員会 (熊本県 球磨村) | 39 |
| 4 NPO法人 かわね来風 (静岡県 川根本町)        | 11 | 津房地区まちづくり協議会 (大分県 宇佐市)       | 41 |
| 5 株式会社 あいポート仙田 (新潟県 十日町市)       | 13 | 酒谷地区むらおこし推進協議会 (宮崎県 日南市)     | 43 |
| 6 上南地区地域づくり協議会 (新潟県 糸魚川市)       | 15 | 中津川区公民館 (鹿児島県 さつま町)          | 45 |
| 7 加子母むらづくり協議会 (岐阜県 中津川市)        | 17 |                              |    |
| 8 海上区 (兵庫県 新温泉町)                | 19 |                              |    |
| 9 えーひだカンパニー株式会社 (島根県 安来市)       | 21 |                              |    |
| 10 株式会社 吉田ふるさと村 (島根県 雲南市)       | 23 |                              |    |
| 11 あば村運営協議会 (岡山県 津山市)           | 25 |                              |    |
| 12 NPO法人 かさおか島づくり海社 (岡山県 笠岡市)   | 27 |                              |    |
| 13 平川村定住推進協議会 (岡山県 高梁市)         | 29 |                              |    |

## 掲載事例の主な取組及び特徴

掲載事例の主な取組内容とともに、資源管理（農地、水路等の保全・管理）、多機能性（取組の多様性）、法人化など、6つの特徴を下表で一覧に整理しています。

| 番号 | 地域       | 組織名                 | 主な取組                                                      | 取組の特徴 |      |     |         |        |          |
|----|----------|---------------------|-----------------------------------------------------------|-------|------|-----|---------|--------|----------|
|    |          |                     |                                                           | 資源管理  | 多機能性 | 法人化 | 他組織との連携 | 経済的自立性 | 女性・若者の活躍 |
| 1  | 北海道 鶴居村  | NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会  | 村オリジナルのチーズの開発、女性を中心とした地域食づくり、農泊及び滞在型観光の推進、子育て女性等のコミュニティ形成 |       |      | ○   | ○       |        | ○        |
| 2  | 岩手県 花巻市  | 高松第三行政区ふるさと地域協議会    | 福祉農園と6次産業化、関係人口の創出、生活課題解決に向けた取組、8団体と協働によるビジョンの策定          | ○     | ○    |     | ○       | ○      |          |
| 3  | 山形県 川西町  | NPO法人 きらりよしじまネットワーク | 縦割りを排除したRMOの形成、人材育成、地域食堂の運営、子育て支援・青少年健全育成事業               |       | ○    | ○   |         |        | ○        |
| 4  | 静岡県 川根本町 | NPO法人 かわね来風         | 都市農村交流拠点の運営と農泊の実践、子育て中の女性の活躍、農産物の出荷代行・ブランド化、農産物の開発・加工販売   |       | ○    | ○   | ○       | ○      | ○        |
| 5  | 新潟県 十日町市 | 株式会社 あいポート仙田        | 地域農業の支援・維持、高齢者支援事業、生活支援事業                                 | ○     | ○    | ○   | ○       | ○      |          |
| 6  | 新潟県 糸魚川市 | 上南地区地域づくり協議会        | ぜんまいほ場の再生、農家レストランの運営、高齢者の生活支援、コミュニティ・交流活動の強化              |       |      | ○   | ○       | ○      | ○        |
| 7  | 岐阜県 中津川市 | 加子母むらづくり協議会         | 地域農林産物の有効活用、若者の呼び込み・移住定住の推進、広報・生活支援システムの開発、コミュニティバスの運行    |       | ○    | ○   | ○       |        | ○        |
| 8  | 兵庫県 新温泉町 | うみがみく海上区            | 「うみやーなあー」のブランド化、交流拠点施設「うみがみ元気村」、ススキ草原再生活動への参画             | ○     |      |     | ○       |        | ○        |
| 9  | 島根県 安来市  | えーひだカンパニー株式会社       | 産業用ドローンを使った水稲防除、地元農産物を活用した商品開発、定住促進の取組み、デマンド交通の推進         | ○     | ○    | ○   |         | ○      | ○        |
| 10 | 島根県 雲南市  | 株式会社 吉田ふるさと村        | 特産品の開発・製造・販売、デマンドバスの運行、水道施設の管理、工事                         |       | ○    | ○   |         | ○      |          |
| 11 | 岡山県 津山市  | あば村運営協議会            | 小さな拠点づくり、農産加工品の生産・販売、あば商店の運営、交通空白地有償運送事業                  |       | ○    | ○   | ○       | ○      |          |

| 番号 | 地域                                 | 組織名                                            | 主な取組                                                     | 取組の特徴    |          |     |                 |            |                  |
|----|------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------|----------|-----|-----------------|------------|------------------|
|    |                                    |                                                |                                                          | 資源<br>管理 | 多機<br>能性 | 法人化 | 他組織<br>との連<br>携 | 経済的<br>自立性 | 女性・<br>若者の<br>活躍 |
| 12 | 岡山県 笠岡市<br><small>かさおかし</small>    | N P O 法人 かさおか島づくり海社<br><small>しま がいしゃ</small>  | 水産物等の加工・販売、デイサービス事業、コミュニティバスの運行、生活支援事業                   |          | ○        | ○   | ○               |            |                  |
| 13 | 岡山県 高梁市<br><small>たかはしし</small>    | ひらかわむらていじゅうすいしんきょうぎかい<br>平川村定住推進協議会            | データ収集・分析と地域農家の意識改革、就農希望者と地域とのマッチング支援、栽培技術習得、就農経営計画樹立支援 等 |          |          |     | ○               |            | ○                |
| 14 | 広島県 三次市<br><small>みよしし</small>     | 株式会社 川西郷の駅<br><small>かわにしさと えき</small>         | 農産物の直売、6次産業化、農家レストラン、購買施設の整備                             |          | ○        | ○   |                 | ○          | ○                |
| 15 | 広島県 安芸高田市<br><small>あきたかたし</small> | かわねしんこうきょうぎかい<br>川根振興協議会                       | 経済・交流活動、福祉活動、住宅整備、地区農地の一括保全・管理、生活サービスの確保                 | ○        | ○        | ○   |                 | ○          |                  |
| 16 | 愛媛県 西予市<br><small>せいよし</small>     | ちいききょうどうくみあいむちゃちゃえん<br>地域協同組合無茶々園              | 有機農業と産直販売の推進、新規就農者の育成・確保、女性が活躍する福祉活動、漁業者との連携、観光事業        |          | ○        | ○   | ○               |            | ○                |
| 17 | 高知県 四万十市<br><small>しまんとし</small>   | 株式会社 大宮産業<br><small>おおみやさんぎょう</small>          | ライフラインの維持、「大宮米」のブランド化、宅配サービス・見守り事業、住民ニーズの汲み取り            |          | ○        | ○   |                 | ○          |                  |
| 18 | 熊本県 球磨村<br><small>くまむら</small>     | いなか たいけんこうりゆかん うんえいいいんかい<br>田舎の体験交流館さんがうら運営委員会 | 農林業体験メニューの開発・実践、地域資源の観光コンテンツ化、棚田オーナー制度、集落サポートの展開 等       | ○        |          |     | ○               | ○          | ○                |
| 19 | 大分県 宇佐市<br><small>うさし</small>      | つぶさちく きょうぎかい<br>津房地区まちづくり協議会                   | 地域住民の暮らしを守る、高齢者と小学生の交流支援、温泉施設の指定管理、共有林の維持管理等             | ○        | ○        |     |                 | ○          |                  |
| 20 | 宮崎県 日南市<br><small>にちなんし</small>    | さかたにちく すいしんきょうぎかい<br>酒谷地区むらおこし推進協議会            | 棚田オーナー制度の取組、道の駅に関する取組、福祉サービスに関する取組、伝統の継承に関する取組           | ○        | ○        | ○   |                 | ○          | ○                |
| 21 | 鹿児島県 さつま町<br><small>ちよう</small>    | なかつがわくこうみんかん<br>中津川区公民館                        | 農業生産の体制づくり、直売・交流活動、「大念仏踊り」の復活、継承活動の財源づくり                 | ○        |          |     | ○               | ○          | ○                |

## 掲載事例の分類

### 1 活動の規模（範囲）の分類

掲載事例について、活動の規模（範囲）から以下の6つに分類しました。

- ①中学校区又はそれより広い（市町村単位など）
- ②旧中学校区（平成の大合併以後の統廃合の直前まで中学校区があったエリア）
- ③小学校区
- ④旧小学校区（平成の大合併以後の統廃合の直前まで小学校区があったエリア）
- ⑤小学校区（又は旧小学校区）より狭い（集落単位など）
- ⑥生産活動の範囲は中学校区、地域づくりに取り組む範囲は旧小学校区

### 2 組織形態の分類

地域運営組織の機能として、地域課題を共有して解決方法を検討・決定する「協議機能」と個々の事業の「実行機能」があります。掲載事例について、それぞれの機能を担う組織形態から、以下の3つのタイプに分類しました。

「一体型」・・・協議機能と実行機能がほぼ一つの組織で運営されている体制

「分離型」・・・協議機能と実行機能が個々の独立した組織によって運営されている体制

「一部分離型」・・・分離型の形態に近いが、協議機能を有する組織が一部実行機能も担っている体制

### 3 取組発展の分類

掲載事例について、取組発展のプロセスから、以下の3つのタイプに分類しました。

「農林漁業起点型」・・・農林漁業の振興の取組から生活支援等の取組に活動を多角化

「生活支援起点型」・・・生活支援等の取組から農林漁業の振興の取組に活動を多角化

「総合発展型」・・・活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施

| 番号 | 地域                                  | 組織名                                                                        | 活動の規模(範囲) | 組織形態  | 取組発展    |
|----|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|---------|
| 1  | 北海道 鶴居村<br><small>つるいむら</small>     | NPO法人 <small>うつく 美しい村</small> ・鶴居村観光協会<br><small>むら つるいむらかんこうきょうかい</small> | ①         | 分離型   | 農林漁業起点型 |
| 2  | 岩手県 花巻市<br><small>はなまきし</small>     | 高松第三行政区ふるさと地域協議会<br><small>たかまつだいさんぎょうせいく ちいききょうぎかい</small>                | ③         | 一体型   | 総合発展型   |
| 3  | 山形県 川西町<br><small>かわにしまち</small>    | NPO法人 きらりよしじまネットワーク                                                        | ③         | 一体型   | 総合発展型   |
| 4  | 静岡県 川根本町<br><small>かわねほんちょう</small> | NPO法人 <small>らいふ</small> かわね来風                                             | ①         | 一部分離型 | 総合発展型   |
| 5  | 新潟県 十日町市<br><small>とおかまちし</small>   | 株式会社 あいポート仙田<br><small>せんた</small>                                         | ②         | 一体型   | 総合発展型   |

| 番号 | 地域                                   | 組織名                                           | 活動の<br>規模(範囲) | 組織形態  | 取組発展    |
|----|--------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------|-------|---------|
| 6  | 新潟県 糸魚川市<br><small>いといがわし</small>    | じょうなんちくちいき きょうぎかい<br>上南地区地域づくり協議会             | ③             | 一体型   | 総合発展型   |
| 7  | 岐阜県 中津川市<br><small>なかつがわし</small>    | かしも きょうぎかい<br>加子母むらづくり協議会                     | ④             | 一部分離型 | 総合発展型   |
| 8  | 兵庫県 新温泉町<br><small>しんおんせんちょう</small> | うみがみく<br>海上区                                  | ⑤             | 一部分離型 | 農林漁業起点型 |
| 9  | 島根県 安来市<br><small>やすぎし</small>       | えーひだカンパニー株式会社                                 | ②             | 一体型   | 総合発展型   |
| 10 | 島根県 雲南市<br><small>うんなんし</small>      | 株式会社 よしだ むら<br>吉田ふるさと村                        | ①             | 一体型   | 総合発展型   |
| 11 | 岡山県 津山市<br><small>つやまし</small>       | むらうんえいきょうぎかい<br>あば村運営協議会                      | ④             | 分離型   | 生活支援起点型 |
| 12 | 岡山県 笠岡市<br><small>かさおかし</small>      | N P O 法人 かさおかしま がいしや<br>島づくり海社                | ①             | 一体型   | 生活支援起点型 |
| 13 | 岡山県 高梁市<br><small>たかはしし</small>      | ひらかわむらていじゅうすいしんきょうぎかい<br>平川村定住推進協議会           | ④             | 一体型   | 総合発展型   |
| 14 | 広島県 三次市<br><small>みよしし</small>       | 株式会社 かわにしさと えき<br>川西郷の駅                       | ③             | 分離型   | 総合発展型   |
| 15 | 広島県 安芸高田市<br><small>あきたかたし</small>   | かわねしんこうきょうぎかい<br>川根振興協議会                      | ③             | 一部分離型 | 生活支援起点型 |
| 16 | 愛媛県 西予市<br><small>せいよし</small>       | ちいききょうどうくみあいむちゃちゃえん<br>地域協同組合無茶々園             | ⑥             | 分離型   | 農林漁業起点型 |
| 17 | 高知県 四万十市<br><small>しまんとし</small>     | 株式会社 おおみやさんぎょう<br>大宮産業                        | ①             | 分離型   | 生活支援起点型 |
| 18 | 熊本県 球磨村<br><small>くまむら</small>       | いなか たいけんこうりゅかん うんえいいんかい<br>田舎の体験交流館さんがうら運営委員会 | ④             | 一体型   | 生活支援起点型 |
| 19 | 大分県 宇佐市<br><small>うさし</small>        | つぶさちく きょうぎかい<br>津房地区まちづくり協議会                  | ④             | 一体型   | 生活支援起点型 |
| 20 | 宮崎県 日南市<br><small>にちなんし</small>      | さかたにちく すいしんきょうぎかい<br>酒谷地区むらおこし推進協議会           | ③             | 一部分離型 | 生活支援起点型 |
| 21 | 鹿児島県 さつま町<br><small>ちよう</small>      | なかつがわくこうみんかん<br>中津川区公民館                       | ③             | 分離型   | 生活支援起点型 |



## 概要

美しい村・鶴居村観光協会は、地域住民を含む多様な組織と連携し、既存の地域資源を活用した農泊、滞在型観光コンテンツの作成、食の観光資源化や子育て世代の女性の活躍の場の創出などに取り組み、地域経済の活性化、人口減少の抑制などに貢献し地域の活性化に繋がっている。



## 地区の現状・課題

<活動の規模>  
中学校区又はそれより広い

釧路湿原国立公園を初めとする豊かな自然景観を有する鶴居村は、人気の観光スポットになっているが、近隣にも観光地があることなどから、村内での宿泊は少なく、通過型の観光スタイルが大半となっており、観光消費は伸びず、地域経済への効果は限定的であった。

また、少子高齢化の進展とともに生産年齢人口が減少傾向にあり、労働力の減少や地域活力の低下などによる地域経済の縮小が懸念されていた。

## 課題に対する主な取組

### 村オリジナルのチーズの開発

農林水産省の中山間地域総合整備事業を活用し、「鶴居村農畜産物加工施設 酪楽館」を建設。ナチュラルチーズ「鶴居」を製造、販売。



年間売上高は3千万円を超え、村の生乳の品質の高さのPR、地域経済の活性化に寄与。

### 女性を中心とした地域食づくり

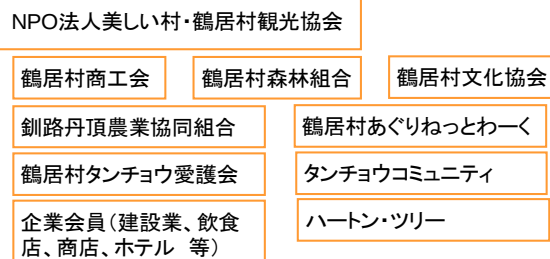
観光協会の連携団体「鶴居村スローライフ実行委員会」では女性が中心となり、チーズの製造過程で生まれる副産物「ホエイ」などを活用した商品開発や冊子によるPRを行う。



作成した冊子「鶴居村の地域食」は累計3000部発行され、鶴居村の魅力の発見、地域の食文化の発展に寄与している。

## 体制図

<組織形態> 分離型



連携  
鶴居村スローライフ実行委員会、ハーブンマージュなど

## 農泊及び滞在型観光の推進

村内団体が連携し合い、村の自然風景を楽しむフットパスコースやサイクリングコースを整備し農泊や滞在型観光プログラムの充実に取り組む。



食づくりの取組等とも併せた効果として村の宿泊者数は平成19年の約6千人から平成30年には14千人に増加している。

## 子育て女性等のコミュニティ形成

観光協会の連携団体である「ハーブンマージュ」では、村内女性が子供と一緒に活動できるガーデニングなどを実施。



子育て中の女性でも気軽に参加でき、人々の新たなつながりや、女性の活躍の舞台が広がっている。

# 組織・取組の発展プロセス（農林漁業の振興の取組から生活支援等の取組に活動を多角化）

## 取組のきっかけ

平成16年に、酪農家を中心としたグリーン・ツーリズム組織「鶴居村あぐりねっとわーく」が発足し農泊などの取組を開始。利用客からの評価が高かったことなどから、取組を村全体に広めるとともに、地域資源を活用したプログラムの企画、通過型観光から滞在型観光への転換を目指した活動が始まった。

## 取組の成果・今後の展望

村に息づく暮らしを生かす観光振興により、観光客数、宿泊者数ともに大幅に増加し地域経済に大きく寄与。移住者も増加しており、社会動態としては、平成23年以降、転入超過で推移するなど、地域の維持・発展にも大きく寄与。



## 村オリジナルチーズの開発

「鶴居村農畜産物加工施設 酪楽館」でナチュラルチーズ「鶴居」を製造、販売。平成19年にはチーズコンテストで農林水産大臣賞を受賞。



農林水産省の中山間地域総合整備事業を活用し施設を整備。

年間売上高は3千万円を超え、食の観光資源にもなっている。

食づくりの取組等とも併せた効果として村の宿泊者数はH19の約6千人から平成30年には14千人に増加。

## 平成24年 NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会に体制強化

観光振興の取組は広がりを見せ、住民のむらづくりへの主体的な参加が広がっていったことから、村内の各団体等の活動を連動させ「NPO法人美しい村・鶴居村観光協会」を設立するとともに、独立した組織運営の上で、鶴居村ならではの観光を推進し、地域の活性化と「日本で最も美しい村～鶴居村」づくりを目指し体制を強化。

新たなグループが発足するなど、活動に広がりを見せており、人々の新たなつながりや、女性の活躍の舞台が広がっている。

観光協会を中心とした動きやその理念が村全体に理解・浸透した結果、観光振興ビジョンの策定に繋がる。

## 平成27年 鶴居村観光振興ビジョン策定

「現在ある豊富な資源を活かしながら、さらなる村の魅力を作り出し、何度でも訪れたくなる村」を目指した『鶴居村観光振興ビジョン』を平成27年に鶴居村が策定し、村が一体となって滞在型観光を推進している。

## 農泊及び滞在型観光の推進

村の自然風景を楽しめるフットパスコースやサイクリングコースを整備し農泊や滞在型観光プログラムの充実に取り組む。

連携団体「鶴居村農泊推進協議会」構成組織との連携。



## 女性の活躍と子育て支援

- 「鶴居村スローライフ実行委員会」では女性が中心となり、特産品の開発や地域食を紹介する冊子作成に取り組む
- 「ハーブンマージュ」では、村内女性が子供と一緒に活動できるガーデニングなどを実施



## 基本情報

組織名：NPO法人美しい村・鶴居村観光協会  
連絡先：0154-64-2020 waku2tsurui@gmail.com

所在地：北海道阿寒郡鶴居村鶴居西1丁目1番地  
視察の受入：平日随時受入（10時～16時）観光協会職員による視察アテンドは無料（体験料等は有料）

URL: <https://tsurui-kanko.com/>



## 高松第三行政区ふるさと地域協議会（岩手県 花巻市）

岩手県  
花巻市

## 概要

人口減少と高齢化が進行し「このままでは限界集落になってしまう」という危機感から、農業体験を通じた高齢者、障がい者、子どもの交流を目的とした「福祉農園」を設置。福祉農園を中心に、地域ぐるみで特産物の生産、加工、販売や景観形成活動、高齢者の生活支援などに取り組み、移住者の定着にもつながっている。



## 地区の現状・課題

&lt;活動の規模&gt; 小学校区

花巻市高松第三行政区は、近年の少子高齢化の進行が進み、コミュニティ機能も脆弱化している。

また、高齢化による農業の担い手不足や公共交通機関がないがために高齢者の通院や買い物が出来ない等の課題に直面した。

「このままでは限界集落になってしまう。」という危機感から、地域ぐるみで高齢者の生活支援や交流などの取組を展開している。

## 課題に対する主な取組

## 福祉農園と6次産業化

福祉や交流を目的に遊休農地を活用した福祉農園を設置し、里山に自生している樹木（ガマズミ、ナツハゼ）を植栽。収穫した果実はゼリーに加工、特産物として販売。



福祉農園では高齢者、障がい者、子どもが収穫体験等を通じて、表情が明るくなるなど精神面や教育面でもポジティブな効果発現。加工品は約1万個販売。

## 関係人口の創出

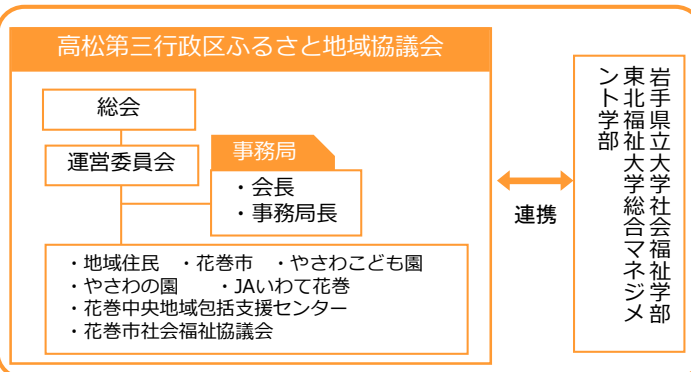
福祉農園の他、遊休農地を活用した貸し農園を設置・運営。地域内外の人々が交流する場となっている。集落から離れた親族などを対象に集落の作物を通信販売する「ふるさと宅配便」を実施。



貸し農園・福祉農園の収穫・交流会には多くの参加者が訪れ、令和元年の関係人口は1,800人となっている。「ふるさと宅配便」は毎年100個の販売実績があり、集落内外の関係維持にも貢献している。

## 体制図

&lt;組織形態&gt; 一体型



## 生活課題解決に向けた取組

誰もが安心して暮らせる持続可能な地域を目指し、高齢者を対象とした自動車による買い物等への付き添い支援、配食サービス、見守り活動にも取り組む。



付き添い支援は平成30年度で122件の利用。貴重な交通インフラとして地域に定着。他の取組も対面によりコミュニケーションが生まれ、高齢者の楽しみの一つ。

## 8団体と協働によるビジョンの策定

岩手県立大学や花巻市等8団体と連携しWSや研修会を重ね「農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン」を策定。



住民主体で策定したビジョンにより、自分たちが目指す姿が「見える化」でき、地域課題を「自分事」と捉えることが出来た。

# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

平成20年、「このままでは限界集落になってしまう」という危機感から、行政区内の全世帯（66世帯）を会員とした協議会を設立。平成23年に岩手県立大学との連携により「ふるさと交流福祉計画」を策定し、農業・福祉・交流を柱に活動。令和元年度「農村版地域包括ケアシステム構築」を策定。

## 取組の成果・今後の展望

関係人口の更なる創出と外部人材による農作業（学生の草刈り援農隊）の体制整備。福祉農園を活用した「青空デイサービス」の実施。現在進行中の農地整備事業と併せた営農計画の策定と福祉施設への食材供給体制の構築。



## 基本情報

組織名：高松第三行政区ふるさと地域協議会  
連絡先：090-4638-9764（事務局長（熊谷））

## 平成20年～ 住民総参加の景観形成活動

手入れされていた、かつての景観を復元しようと地域住民総参加の景観形成活動を展開。参加数は年間で延べ500人。



農林水産省「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」による地域づくり活動を開始。

平成23年から岩手県立大学社会福祉学部による支援。（宮城好郎教授）

## 平成22年～ 関係人口の創出

遊休農地を活用した貸し農園の設置、運営。貸し農園、福祉農園の収穫・交流会には多くの参加者が訪れ、令和元年の関係人口は1,800人となっている。「ふるさと宅配便」は毎年100個の販売実績があり、集落内外の関係維持にも貢献している。



平成28年からドローンを活用した景観点検を実施。

農林水産省「農山漁村振興交付金」を活用。

## 令和元年 連携8団体との 協働によるビジョンの策定

「地域のあるべき姿」を模索する中で、岩手県立大学や花巻市等の連携が生まれ、WSや研修会を重ね令和元年に「農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン」を策定。



## 平成26年～ 生活課題解決 に向けた取組

一人暮らしの高齢者などへ福祉農園の食材を活用した配食サービスを実施。通院や買い物などの足の確保の訴えから、自動車による買い物等への付き添い支援を社会実験（平成28年～平成29年）。平成30年以降は花巻市事業により継続。付き添い支援や配食サービスが高齢者の見守り活動としても機能。



集落から離れた親族などを対象に集落の農作物を通信販売する「ふるさと宅配便」実施に向けたアンケートを実施。

## 平成23年～ 福祉農園の 設置と6次産業化

地域の高齢者等の福祉や交流を目的に遊休農地を活用した福祉農園を設置。地域資源として里山に自生している樹木（ガマズミ、ナツハゼ）を植栽。収穫した果実はゼリーに加工、販売。



所在地：岩手県花巻市高松  
視察の受入：可能（有料）日程により対応できない場合があります。

### 3 NPO法人 きらりよしじまネットワーク（山形県 川西町）

かわにしまち



山形県  
川西町

#### 概要

形骸化した複数の地域組織の縦割りを排除し、意思決定、実行機能を一体化した組織を形成するため、3年の準備期間をかけて合意形成し、地域の全世帯が加入したNPO法人を設立。地域住民主体の合意形成、人材育成などに取り組み、人口減少、高齢化に対応するための50を超える地域づくりの事業を展開。



#### 地区の現状・課題

<活動の規模> 小学校区

山形県川西町は平成8年から18年まで財政難により公民館の「公設民営化」を検討していた。民営化について検討する中で、吉島地区では、地域づくりに対する各自治会等の温度差や危機感の希薄化、様々な事業の休止・縮小、参加者の固定化など、組織の形骸化が進んでいることが明らかとなった。人口減少、高齢化が進む川西地区で地域づくりを進めるためには、複数の組織の縦割りを排除し、地域の合意形成や実行機能を一つにする必要があった。

#### 課題に対する主な取組

##### 縦割りを排除したRM0の形成

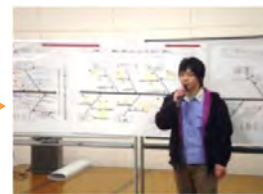
住民説明と住民ワークショップを丁寧に繰り返し、少しずつ合意形成を図り、設立までに3年の準備期間を設け、平成19年に全世帯加入のNPO法人を設立。



地域のコーディネーター役として、資金作り、子育て支援、高齢者支援など50を超える事業を展開。

##### 人材育成

地区内19の自治公民館から推薦を受けた地域の若者を教育部会に配属し、地域づくりの活動をしつつOJTにより地域指導者へ育成する仕組みを構築。



これまでに30名の若者がNPOの事務局になり、地域コーディネーター（指導者）として活躍している。

##### 地域食堂の運営

川西町吉島地区で生産している農作物や米を活用した地域食堂を運営している。子ども食堂も兼ねており、学童保育等へも食事の提供をしている。



年間約300万円の売上があり、地域の農家所得向上に貢献している。吉島地区の食の魅力の発信、都市との交流にも繋がっている。

##### 子育て支援・青少年健全育成事業

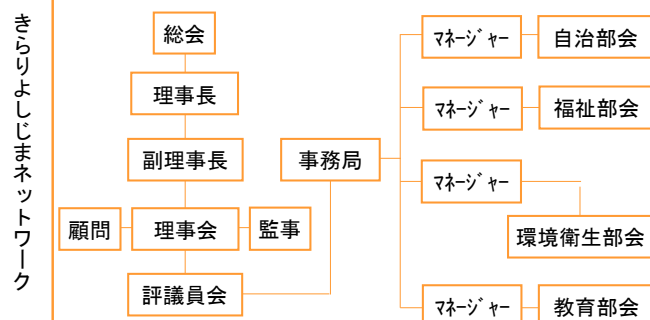
地域のかぎっ子対策・共働き世帯の支援として児童を預かり、「遊び」「学び」「生活」を通して、児童の健全育成を図っている。



約70名の児童が利用し、地域住民もボランティアとして協力することで世代を超えたつながりが生まれている。

#### 体制図

<組織形態> 一体型



# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

平成14年、町の行財政改革に伴う公民館の公設民営化を契機とし、様々な課題が見られた地域を再生させるために、当時の公民館事務局のメンバーを主に新たな組織の立ち上げに着手。



## 平成17年～19年 地域の合意形成、法人設立

住民説明と住民ワークショップを丁寧に繰り返し、少しずつ合意形成を図り、設立までに3年の準備期間を設け、平成19年に前身の社会教育振興会を解散し、全世帯加入のNPO法人を設立。



現在の事業規模は約5千～6千万円。住民からの寄附や会費、行政からの委託金などで財源を確保している。

総務省の過疎地域自立活性化推進交付金を活用。

## 平成19年～ 住民所得の向上の取組

6次産業化推進のための運営委員会を設置し、グリーンツーリズム、農家レストラン、加工班を構成し、地区加工研究所で加工品の研究をしている。女性の起業支援としてお弁当・惣菜加工所2ヶ所の事業化を支援。都市部と農村部の交流ビジネスを展開。農業青年で構成されたグループがビジネスの運営を担う。



女性によるお弁当屋の起業

## 平成20年～ 子育て支援・青少年健全育成

地域のかぎっ子対策・共働き世帯の支援として学童保育を運営。児童を預かり、「遊び」「学び」「生活」を通して、児童の健全育成を図っている。

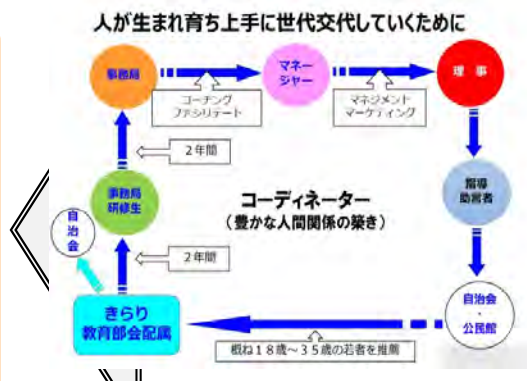
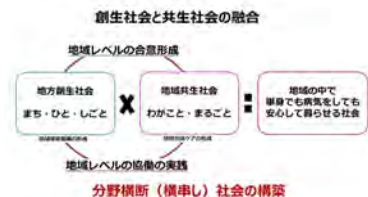


約70名の児童が利用し、地域住民もボランティアとして協力することで世代を超えたつながりが生まれている。

総務省のRMOによる総合生活支援サービスに関する調査研究にかかるモデル事業を活用。

## 取組の成果・ 今後の展望

自分たちの孫世代の地域づくりまでを見据え、行政に依存することなく、住民の愛郷心を拠り所とし地域づくりを統治する優良な事業主体を創造。自己完結の地域経営を目指す。



若者の登用によりNPO事務局スタッフの平均年齢は34歳。若者の意見が採用されやすい地域づくりを推進。

年間約300万円の売上があり、地域の農家所得向上に貢献している。吉島地区の食の魅力の発信、都市との交流にも繋がっている。

## 次世代の人材育成

地区内19の自治公民館から推薦を受けた地域の若者を教育部に配属し、地域づくりの活動をしつつOJTにより地域指導者へ育成する仕組みを構築。

## 平成30年～ 農産物のミニ直売所 地域食堂の運営 買い物支援（移動販売）

平成23年からの「きらり産直市場」と30年からの地域食堂「まんま屋」を統合。川西町吉島地区で生産している農作物・果樹・加工食品・工芸品などを販売する一方、地産地消の拠点としている。また、全町を網羅する買い物支援も行っている。



## 基本情報

組織名：NPO法人 きらりよしじまネットワーク  
連絡先：0238-44-2840

所在地：山形県東置賜郡川西町吉田5886-1  
視察の受入：可能（有料）ホームページから申し込み

URL: <http://www.e-yoshijima.org/>





## 概要

4世代が幸せに暮らせるまちづくりを目指してNPOを立ち上げ、農産物販路の確保、交流施設・農泊を通じたグリーン・ツーリズムの展開、子育て中の母親による高齢者へのお弁当の宅配など様々なアイデアを事業化し、地域経済の活性化、都市農村交流、農村での女性の活躍や高齢者対策などの定住環境の改善に貢献している。



## 地区の現状・課題

<活動の規模>  
中学校区又はそれより広い

静岡県川根本町は、県中央部に位置する中山間農村地域で、人口は昭和40年では16,919人であったが平成27年には7,538人に減少している。高齢化率も46%を超え、過疎化や少子化は住民の間でも実感されており、町内の集落は山間に分散していることから川根本町の地域コミュニティが機能しなくなるとの懸念が高まっていた。

また、市街地（藤枝市）とは40km以上離れており、地域農業者は農産物を出荷しにくい状況であった。

## 課題に対する主な取組

## 都市農村交流拠点の運営と農泊の実践

町内キャンプ場の管理・運営に加え、海外学生の教育旅行等の受入、農家民宿の開業支援、体験プログラムの開発、情報発信を実施。



キャンプ場利用者は年間1万人を超え、都市農村交流が拡大。農泊は協力農家11軒、利用者数は年間1.8千人を超え、農業農村体験の場が拡大。

## 子育て中の女性の活躍

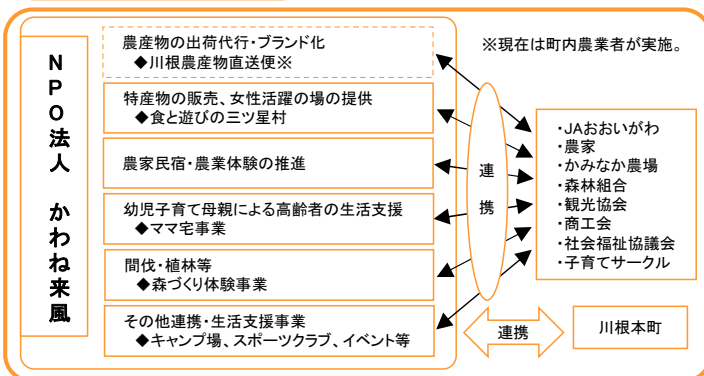
子育て中の女性が、町内の高齢者へお弁当を宅配し、世代間の交流と雇用を生み出す仕組み「ママ宅」や有償ボランティア「ちょいサポ」などを運営。



「ママ宅」は、41人の高齢者に9人のママが訪問。「ちょいサポ」は年間77人、314件の利用があり、高齢化社会の公共的課題解決モデルとして注目。

## 体制図

<組織形態> 一部分離型



## 農産物の出荷代行・ブランド化

地域の農産物や加工品を農業者に代わって集荷・配送する仕組みを構築。作成したロゴマーク「川根やまそだち」を農産物に貼ることで、統一ブランド化。



直売所への出荷とともに、消費者の動向等の情報を生産者に還元でき、ニーズに応じた農産物の生産拡大を誘導。統一ブランド名・ロゴマークにより、地域農産物の認知度が向上。

## 農産物・特産品の開発・加工販売

販売経験のない住民が、農産物の加工・販売や接客を行う「食と遊びの三ツ星村」を開設。ゆず粉を使った加工品等の特産品を開発。



商品づくりや店舗運営を行う女性達の雇用を創出。観光客が地域情報を知る拠点としても活用。農業者がゆず栽培拡大に取り組み、県内一の産地へと発展。

# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

“限界集落”、“消滅可能性自治体”に危機感をもった有志が集まり「かわね来風」を結成し法人化。  
【平成20年～】

- ・少子高齢化
- ・人口減少
- ・地域コミュニティー機能の低下
- ・活動拠点及び財源の確保

## 平成21年～ 活動拠点及び自主財源づくり

- ・川根本町を知ってもらう農園体験イベントの開催
- ・農業体験活動拠点及び自主財源づくりの一環として町営キャンプ場を管理・運営（令和元年利用者数：10,462人）



町営「三ツ星オートキャンプ場」の指定管理者に応募・選定。



農業体験をしている来訪者の姿を地域住民が目にする事で、グリーン・ツーリズムへの理解が醸成。

## 平成23年～ グリーン・ツーリズムの推進

- ・「かわねグリーンツーリズム推進協議会」を設立
- ・三ツ星オートキャンプ場を拠点に、SLが見える農園での農業体験や農家民宿開業を推進
- ・体験メニューの企画

町営キャンプ場の収益活用。

- ・地域には、孤立する高齢者と子育て中の母親が在住
- ・女性の活躍・交流場所が不足

## 平成24年～ 子育て母親等による高齢者の生活支援「ママ宅」等

- ・幼児を連れながらの収入確保や高齢者支援が可能となる「ママ宅」を事業化（平成24年～）（令和元年利用高齢者：41人）
- ・有償ボランティアによる高齢者の生活・農業支援「ちょいサポ」を事業化（平成28年～）（令和元年利用者、件数：77人、314件）



- ・近隣市町の直売所が遠距離のため町内生産者の出荷が不便
- ・女性の活躍場所の更なる創出

## 取組の成果・今後の展望

地域の生活を支えるサービスを多数産み出すとともに、子育て中の女性など地域住民の活動の場が創出されることで、やりがい・生きがいを感じられる地域づくりに貢献している。  
今後は、町等との連携により、地域の子供達が就業できる企業誘致「プロジェクトK」を推進していく。

- ・移住者の受入対策
- ・空き家対策

「ふじのくに川根本町ゆず協同組合」等との連携による作付け拡大や商品開発。

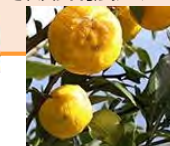
## 平成31年～ 質の高い農泊の推進

- ・「川根路農泊推進協議会」を設立し、農泊を推進（令和元年～、農家民宿11軒が協力、令和元年利用者数：1,822人）
- ・移住者向けの空き家・農家民宿開業等に関する支援・情報提供



## 平成25年～ 農産物の販路拡大・特産品の開発・加工

- ・「川根清涼野菜出荷協議会」を設立し、ロゴマークを付しブランド化した農産物の出荷を支援
- ・女性達を中心となり特産品の販売、商品開発等に取り組む「食と遊びの三ツ星村」を開設・運営
- ・農産物や特産品等を農家民宿の調理体験へ活用することで販路拡大



## 基本情報

組織名：特定非営利活動法人 かわね来風（らいふ）  
連絡先：0547-56-1617

所在地：静岡県榛原郡川根本町上長尾1056番地の2  
視察の受入：可能（条件 一部有料）

URL: <http://kawanelife.org/>



新潟県  
十日町市

## 概要

人口減少、高齢化が進み、かつ山間部の条件不利地において地区内唯一の購買施設の撤退等を契機に、地域農業の支援・維持及び高齢者等の生活支援を目的に地域住民の有志が株式会社を設立。高齢者が安心して営農できる支援、地域住民の生活を支える購買施設の運営など地域の便利屋として欠かせない存在となっている。



## 地区の現状・課題

＜活動の規模＞ 旧中学校区

仙田地区は、新潟県十日町市の市街地から16kmほど離れた山間地帯に位置し、12集落が点在しているが、うち3集落は廃村となっている。地区の平均高齢化率は55%で、最も高い集落は80%である。高齢者のひとり暮らしも多く、著しく過疎・高齢化が進んでいる。

また、農業後継者不足や地区内唯一の店舗であった農協購買店が撤退するなど、地域では将来の生活に不安を抱えていた。

## 課題に対する主な取組

## 地域農業の支援・維持

農地の集積が困難な山間地において、高齢農業者の農作業を受託するとともに、耕作できなくなった離農者に代わり水田耕作を行っている。

また、仙田地区の中山間地域等直接支払制度では、参加集落を包括した集落協定の事務局を努め、地域農業の中心的役割を担っている。

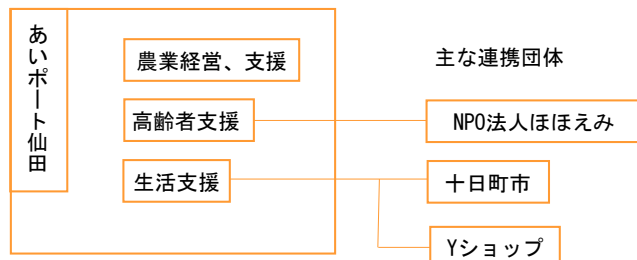


高齢農業者の作業負担軽減につながっており、利用者は代々守ってきた農地で生きがいを持ち、安心して営農を継続している。

中山間地域等直接支払制度では、48haの協定面積をサポートし、地域農業の維持に貢献している。

## 体制図

＜組織形態＞ 一体型



## 高齢者支援事業

高齢者が冬季でも安心した生活が送れるよう、一人世帯等の要援護者世帯宅の冬季の雪下ろしや地区内の道の駅で高齢者通所事業を実施。



年間20件以上の屋根の雪下ろしを実施しており、地域の安全、安心な暮らしを支えている。

## 生活支援事業

十日町市と道の駅「瀬替えの郷せんだ」の指定管理契約を締結し、農産物直売、食料品、日用雑貨の販売、食堂の運営を行っている。



地区内唯一の購買施設として年間約5万人の利用があり、地域の生活を支えるとともに、都市との交流の拠点としても機能している。

# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

地区内唯一の店舗であった農協購買店の撤退や、保育園、小学校の閉園、閉校など、地域での生活に不安が生じていた。  
このため、地域の基幹産業である農業だけでなく、生活支援も行う組織として株式会社を設立する構想が浮上。

## 取組の成果・今後の展望

取組によって高齢者や地域住民が安心して営農、生活できる環境が維持されている。  
今後は、加工品の開発、6次産業化等を進めるため、経営企画や経理事務に精通した人材の確保に向けて社内の人材育成および地区内外からの人材確保を推進する。

## 平成22年 「株式会社あいポート仙田」設立

地域住民に対し17回の説明会を実施し、発起人6名、資本金114.8万円、株主は地区内の有志15名で「株式会社あいポート仙田」を設立。

国土交通省の「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活園」形成推進事業を活用し高齢者の冬季の住環境を整備。

NPO法人ほほえみと連携して実施。

## 平成24年～ 高齢者支援事業②

道の駅において独居高齢者通所事業を実施。高齢者の安心な居場所づくりに取り組む。



## 平成22年～ 地域農業の支援・維持①

高齢農業者の農作業を受託するとともに、耕作できなくなった離農者に代わり水田を耕作。



高齢農業者は代々守ってきた農地で生きがいを持ち、安心して営農を継続している。

年間約5万人の利用があり、地域の生活を支えるとともに、都市との交流の拠点としても機能している。

## 平成24年～ 生活支援事業

道の駅で農産物直売、食料品、日用雑貨の販売、食堂の運営を実施。地区内唯一の購買施設として地域住民の生活を支援。



Yショップと連携し運営。

## 平成22年～ 高齢者支援事業①

高齢者が冬季でも安心した生活が送れるよう、一人世帯等の要援護者世帯宅の冬季の雪下ろしを実施。



## 平成23年～ 地域農業の支援・維持②

仙田地区の中山間地域等直接支払制度において、参加集落を包括した集落協定の事務局を努め、地域農業の中心的役割を担う。



【平成24年】十日町市と道の駅「瀬替えの郷せんだ」の指定管理契約。

## 基本情報

組織名：株式会社 あいポート仙田  
連絡先：025-761-2008

所在地：新潟県十日町市赤谷癸3289番地  
視察の受入：可能（有料）電話で申し込み

URL: <http://aiport-senda.2-d.jp/index.html>





新潟県  
糸魚川市

## 概要

上南地区は、高齢化と人口減少に悩んでいたが、地域の全世帯で構成する「上南地区地域づくり協議会」を中心に地域づくりプランを作成。同プランのコンセプトである「上南地区の住民が増えて、代々受け継がれて行く」を目標に、農家レストランの運営等様々な活動を展開。



## 地区の現状・課題

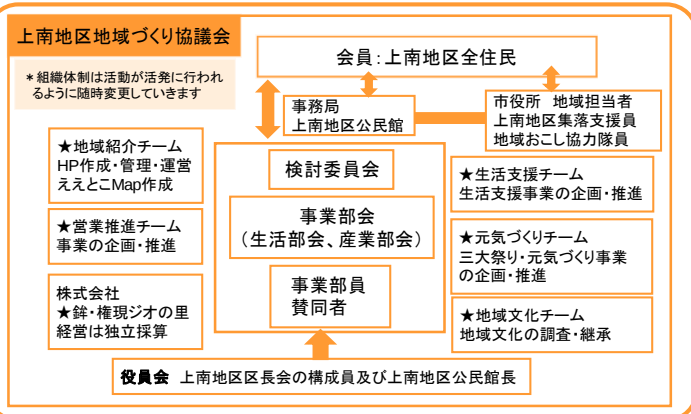
<活動の規模> 小学校区

上南地区は、高齢化と人口減少により地域住民の活力が低下し、各集落単位で実施していた伝統行事の開催もままならない状況の中で、今後の地域の展望が見えない状況になりつつあった。

また、平成の初めから山菜ぜんまいの採取・販売が盛んに行われていたが、高齢化により山菜採りをする者の減少と管理放棄するほ場（ぜんまい用）が増加してきた。

## 体制図

<組織形態> 一体型



## 課題に対する主な取組

### ぜんまいほ場の再生

プランの実行部隊「(株)銚・権現ジオの里」を設立。ぜんまいほ場の再生を行い、ぜんまいの共同加工施設を整備。



ぜんまいほ場の管理・調整作業で新規に9名を雇用。ぜんまいの販売額は約500万円(令和元年)。

### 農家レストランの運営

レストラン「農家キッチンひだまり」を設置。地元の山菜・野菜等を活用した料理の提供及び農産物の直売を実施。



レストラン運営のため新規に約11名を雇用。レストランの入場者数は約9,000人、売上は2,500万円(令和元年)

### 高齢者の生活支援

高齢者世帯のための「ワンコインのなんでも屋さん」事業や、高齢者の孤立防止支援策として「みんなの喫茶店」の開設、「地域応援隊」による互助システム構築。



なんでも100円で要望を受ける仕組みを構築。特に高齢者が集まるサロン会場で春と秋に実施する「包丁研ぎ」は盛況。

### コミュニティ・交流活動の強化

花いっぱい運動、ふれ愛キャンドル祭り。都市交流、地区内農業法人等との連携。



県外の20代女性が定住し地区内農業法人に就農。県外からの移住・定住者はこれまで18名。

# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

住民一人ひとりが、地域の衰退に対する危機感を持つ中、市から「地域主体・行政支援型」のモデル地域として施策活用の提案があり、「地域住民による地域活性化」をテーマに11集落9会場で懇談会や全世帯を対象にアンケート調査を実施(平成24年)。上南地区全体で話し合うきっかけとなった。

## 平成24年 アンケート調査の実施

地域の現状と課題を把握するため、市と集落の区長会が主体となり、①各集落の住民懇談会（11集落・9会場）と地域内の各団体の懇談会（6会場）の開催。②348戸の全世帯(平成24年当時)にアンケート調査を実施。

「花いっぱい運動」  
「ふれ愛キャンドル祭り」



## 上南地区地域づくり 協議会設立

全世帯で構成する任意団体の「上南地区地域づくり協議会」を設立。(平成24年7月)  
また、協議会の中に産業部会（産業に関すること）と生活部会（暮らしに関すること）を設け、両面から地域の課題を把握。

## 平成25年 城南地区 地域づくりプラン策定

産業部会と生活部会の20回以上におよぶ検討後、上南地区の今後の展望を描くプランを策定。



産業部会は、連携団体「(株) 鉾・権現ジオの里」が主体的に活動。

## 地域づくりプランの実行 (産業部会)

- (株) 鉾・権現ジオの里設立
- 「ぜんまい」の共同加工施設の整備、加工・販売。山菜採りツアーの実施
- 農家レストラン「キッチンひだまり」を整備・開業。地元食材を活用した料理の提供
- 東洋大学生を対象とした「移住モニターツアー」の実施
- 「農業生産法人(株) あぐり能生」と連携し、レストラン敷地に手焼き煎餅工場誘致



## 地域づくりプランの実行 (生活部会)

- 高齢者や移住者等を支援する「ワンコインのなんでも屋さん」事業開始
- 市福祉事務所事業「地域支え合い推進事業」で公民館内に「みんなの喫茶店」を開設し、高齢者の憩いの場の開催
- 「地域応援隊」による互助システム構築
- 「花いっぱい運動」による花壇づくり開始
- 雪原でろうそくを使ったイベント「ふれ愛キャンドル祭り」の開催
- 県の除雪ボランティア「スコップ」受入
- 地域内スキー場と連携し、餅つきイベントの開催
- 情報発信のためのHPの開設



## 取組の成果・ 今後の展望

- 移住・定住者は18名
- ふれ愛キャンドル祭は市内を代表する祭りの1つに成長
- 農家レストランは市の観光バスの昼食会場に指定
- マスク・ハンカチ・ポロシャツ・タオルの作成、地元温泉旅館への野菜出荷等の新たな取組を行っている
- 高齢者買物支援、自然活動施設整備と誘致活動を行い

## 基本情報

組織名：上南地区地域づくり協議会  
連絡先：025-568-2533 jyounanko@bz04.plala.or.jp

所在地：新潟県糸魚川市模248番地 上南地区公民館内  
視察の受入：可

URL: <http://nou-jyounan.com/>





## 概要

本協議会は、多様な組織とのネットワークを結び、地域の新たな担い手となる人材を育てながら集落営農組織の充実を図り、継続的な実施を目指している。また、多様な団体とのコラボレーションによる特産品プロダクトを行い、地域経済の活性化、人口減少の抑制などに貢献するとともに、地域の活性化に繋がっている。



域学連携事業に参加した大学生達



## 地区の現状・課題

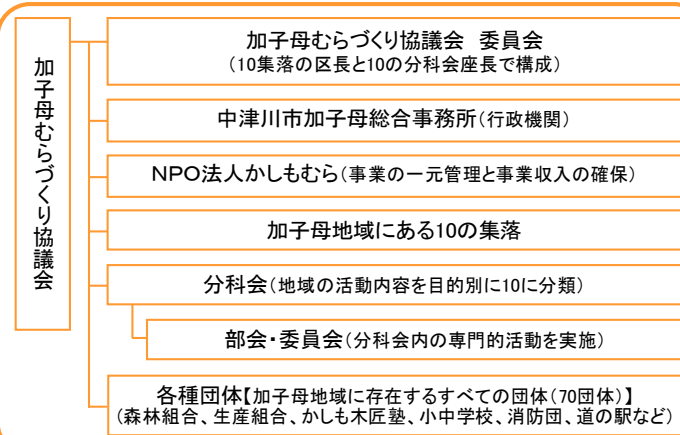
＜活動の規模＞ 旧小学校区

地域の少子高齢化、農林業の低迷に加え、平成17年の市町村合併により地域活動や広報機能等の縮小で、住民と行政の距離が広がり、地域コミュニティの低下が危惧されていた。

また、農林業従事者の後継者や担い手の確保、若者の流出を防ぐための新たな仕事の創設、高齢者が安心して暮らせるネットワーク構築が地域の重要な課題となっていた。

## 体制図

＜組織形態＞ 一部分離型



## 課題に対する主な取組

### 地域農林産物の有効活用

地元農林産物を活かした加工品の製造や、新たな分野の商品開発、生産意欲を高めるための取組を実施。



トマトジュースやヒノキ葉精油など、地元農林産物を活用した加工品の開発・販売や、軽トラ市の開催（年5回程度）で生産意欲向上・都市交流に貢献。

### 若者の呼び込み・移住定住の推進

域学連携事業に取り組み、若者を呼び込むとともに、空き家対策による移住定住を促進。



域学連携事業には、毎年延べ4千人以上の大学生が参加。また空き家対策検討委員会設立（平成28年）により、12人が移住。

### 広報・生活支援システムの開発

地域独自の生活インフラを構築するため、地元のIT会社と連携して、「地域広報システム」と「生活支援システム」を開発。



行政情報のほか様々な地域情報を提供するとともに、高齢者などに地域の店が宅配を行うなどの買い物支援に寄与。

### コミュニティバスの運行

中津川市の業務委託を受け、地域内でコミュニティバスを運営。運行コースや停留所など、協議会自ら運営に参加し、使い勝手の良いルートを設定。



市内の他地域と比べて利用者が多く、交通弱者である高齢者や地域住民の生活の足として欠かせない交通手段に発展。

# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

平成17年に旧加子母村を含む7町村が中津川市に合併。合併を受け、ひとつの市として一体感の創生を図るとともに、地域の特徴が活かされた多様性のあるまちづくりを目指すために、旧町村単位に「地域審議会」を設置。地域住民の意見を市長に伝える組織として機能した。

## 平成7年～ 「かしも木匠塾」

大学で木造建築を学ぶ機会がないという意見から誕生。伝統技術を持つ地域大工の指導のもと、木製建造物の製作実習を行い、地元の伝統木工技術を継承。木匠塾を通して地域外の若者が多く訪れ、地域内への就業にも繋がっている。



## 平成19年 とまと研修農場 の設立

トマト生産組合が平成19年、研修農場「かしも健康とまと村」を設立・整備し、就農希望者を受け入れ、トマト生産組合員が研修生を指導。



平成20年～30年の10年で県内外から8人が新規就農し、うち6人が加子母地域で就農。

## 平成24年 「加子母むらづくり協議会」設立

地域住民が自主的な地域づくりに取り組むため、地域審議会を発展させ、加子母むらづくり協議会を設立。協議会は、加子母地域に在住する全ての人をもって組織され、加子母地域に存在する全ての団体が構成員となっている。

## 平成27年 「NPO法人かしもむら」設立

地域の現状・将来に対して、地域の活性化に対する事業を行い、元気なまちづくりに寄与することを目的に、平成27年、協議会内に「NPO法人かしもむら」を設立。

法人化により、任意団体ではできない事業の受託が可能に。各種事業主体として事業の一元化と事業収入を確保・明確化。



軽トラ市の様子



市指定管理受託の芝居小屋「かしも明治座」

## 取組の成果・ 今後の展望

大学、企業等と地域の交流の中から、地域の課題解決に向けた提案を導き出し、実践活動を行うことで、継続的な地域活性化活動を促進。人的、地域のネットワークを構築し、様々な主体と連携を図り実施することで、持続可能な住みよい暮らしを実現。集落をサポートする人材を育成し、地域活性化の取組の管理運営、コーディネート等を持続的に行う体制を構築。

当初6大学50人から現在は8大学300人が参加。「域学連携事業」として様々な分野で大学との交流が広がり、直近の5年間で、延べ77大学25,588人が参加。

平成29年は県の補助事業を活用して研修施設を整備。

## 高齢者に優しい 地域づくり

- 高齢者の交通手段確保を目的にNPO法人かしもむらが業務委託を受け、コミュニティバスの運営に参加
- NPO法人かしもむらが事業主体となり地元のIT会社と連携して地域広報支援システムを開発・運用し、各種情報の提供・買い物支援に寄与

## 平成28年 軽トラ市開始と 「空き家対策検討委員会」設立

- 地元農産物の販売及び住民と観光客の交流を図る目的で軽トラ市を開催（年5回程度）。高齢者の生きがいづくり対策にも貢献
- 定住促進のため「空き家対策検討委員会」を設立。移住者の住居や就業、通勤の交通手段などの課題解決や、移住可能な物件データを作成

検討委員会設立後の3年間で、3世帯6人のIターンと、2世帯6人のUターンが移住。

## 基本情報

組織名：加子母むらづくり協議会（NPO法人かしもむら）  
連絡先：0573-79-3669

所在地：岐阜県中津川市加子母3519番地2  
視察の受入：可 ※要相談 施設使用料、資料代等実費ご負担をお願いします。

URL: <http://www.kashimo.jp>



兵庫県  
新温泉町

## 概要

少子高齢化や過疎化が進行し、集落の消滅が危惧されていた山間の棚田地域で、地域住民が主体となり「集落農業経営プラン」を作成。「営農組合と元気村の両輪で人・村・地域おこし」をキャッチフレーズに特別栽培米のブランド化や交流施設の整備などに取り組み、農業生産の安定や地域活性化に繋がっている。



交流拠点施設「うみがみ元気村」



## 地区の現状・課題

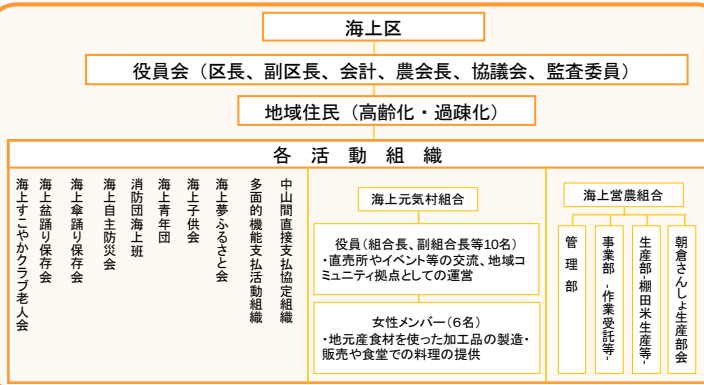
<活動の規模>  
小学校区より狭い

海上集落は、集落の農地のほとんどが地形条件が厳しい山間の棚田で、地滑り地帯でもあることから、基盤整備が進んでおらず、農作業の作業効率、単収ともに低く、個別完結型の農業経営では採算性に課題を抱えている状況にあった。

更には、農家の高齢化が進み後継者の確保も難しい状況にあったことから、『このままでは集落が無くなってしまう、1年でも長く集落を維持したい』との集落住民の思いから、むらづくりの取組が始まった。

## 体制図

<組織形態> 一部分離型



## 課題に対する主な取組

## 「うみゃーなあー」のブランド化

畜産農家との連携で低農薬栽培が可能となった棚田特別栽培米「うみゃーなあー」をブランド化し、神戸市のアンテナショップや道の駅等で展示販売。



清流水と但馬牛を活用して生産された「うみゃーなあー」は年間約9tを出荷中。

## 交流拠点施設「うみがみ元気村」

「うみがみ元気村」の整備を契機に、農産物加工・直売所、食堂を立ち上げ、女性の活躍・生きがいの場を創設するとともに、地域内外との交流の促進を図るなど、地域コミュニティの形成・継続がされている。



地元産農産物の加工品の販売により、村の中に小さな経済と棚田米生産農家の農業経営の安定が生み出された。

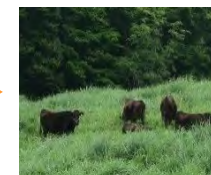
食堂では地元女性が郷土料理も提供し「うみゃーなあー」を使った、ばっこう牛肉定食（但馬牛の経産牛の食肉を「ばっこう牛」という。）が大人気となっている。



食堂利用者は、1,300人(平成23年)から2,500人(平成30年)に増加。

## ススキ草原再生活動への参画

集落近隣の上山高原では、畜産衰退・放牧牛減少により、高原の荒廃・原野化が進行したが、この再生活動に協力。



畜産農家による但馬牛の放牧が復活するとともに、水田の水源地としての機能が維持。

# 組織・取組の発展プロセス（農林漁業の振興の取組から生活支援等の取組に活動を多角化）

## 取組のきっかけ

- 平成11年、限界集落化が進む危機感のなか、集落と農業の課題を整理し、将来に向けた振興を図るため「集落営農プラン」を策定
- その後「海上営農組合」を設立し、農業機械施設の共同利用や基幹作業の受託、棚田ブランド米の販売を開始

## 平成13年 海上営農組合設立

- オペレーター10名、46戸で設立
- 倉庫と農業機械を所有、共同機械を導入し作業受託を開始



平成12年 中山間地域等直接支払制度の取組

平成18年 水路修繕工事をきっかけにブランド米商品化に向けたWSを開催

## 平成19年 棚田ブランド米 「うみやなー」商品化

- 高地棚田で気温日較差を活かした清流と但馬牛の牛糞堆肥を使った特別栽培による棚田米（コシヒカリ）を「うみやなー」のブランド名で商品化
- 農地・水・環境保全向上対策に取り組む中で、棚田米生産農家はエコファーマー認定を取得のほか、G-GAP水準の生産工程管理にも取り組む

美方郡内等の消費者や民宿・旅館等の契約販売等で収入の安定化、耕作放棄地の発生防止、過疎化の歯止めにも貢献。

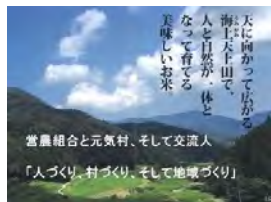
## 平成23年 うみがみ元気村開設

交流拠点施設「うみがみ元気村」を開設し、女性6名を中心に地元産食材をつかった加工品（写真）の直売や食堂の営業、交流イベントに取り組む。



## 取組の成果・今後の展望

地域が持続していけるよう自治会のもと、営農組合と元気村が両輪となり、地域資源を活かしつつ棚田米をはじめ、農産物や加工品販売、食堂の営業や交流イベント等を継続し、地域活性化を図っていく。



この収穫祭は、近年参加者が増加傾向で、平成27年の約200人から令和元年には約600人となっている。

地すべり・豪雪地帯という不利条件ながら、「朝倉さんしょ」という新品目に挑戦。

## 県内大学生を中心に稲刈り芋ほり等体験交流イベント

毎年、収穫祭等の交流イベントを開催し、周辺都市住民らの参加で賑わっており、平成27年、28年には県内大学生が中心に体験交流イベントが開催。



## 棚田利用で山椒の栽培開始

- 棚田を利用し、山椒（朝倉さんしょ）の栽培を開始
- 営農組合の朝倉さんしょ生産部会8名により、R1年度から出荷を開始



令和元年 豊かなむらづくり全国表彰事業農林水産大臣賞受賞。

## 基本情報

組織名：海上区（海上区営農組合・海上元気村）  
連絡先：0796-93-0560

所在地：兵庫県美方郡新温泉町海上891-1  
視察の受入：可能



## 概要

少子高齢化等による地区存続の危機感から、地区機能維持の仕組みを創るため88個の戦略プランからなる「比田地域ビジョン」を策定。平成29年にビジョン実現のため地域住民を構成員とした「えーひだカンパニー株式会社」を設立し、住民による住民のための株式会社として、生活環境、福祉、産業、観光など多岐にわたる分野で、比田地域の活性化に向けて事業を展開している。



設立総会



## 地区の現状・課題

<活動の規模> 旧中学校区

安来市は島根県の東端、鳥取県との県境に位置し、「どじょうすくい」や「ヤスキハガネ」の町として知られている。

比田地区は安来市の最南端に位置する中山間地で、飯梨川の源流地、また、屏風のごとく連なる比田連山のふもと、自然豊かな季節感にあふれた山紫水明の地であるが、高齢化や少子化などにより地区の存続が難しい状況にあった。

## 課題に対する主な取組

## 産業用ドローンを使った水稲防除

（比田米プロジェクト部）  
防除剤散布は地域外へ外注する農家が多かったため、平成29年に産業用ドローンを購入し、受託事業を開始。



令和元年には140haを防除。地域おこし協力隊2名を含む6名（10代～50代の女性を含めた若手中心）がライセンス取得。地元での働く場を創出。

## 地元農産物を活用した商品開発

（ひだキッチン部）  
地元の女性農家と管理栄養士資格を持つ地域おこし協力隊でドレッシングを開発。比田米の新たな活用方法として、米粉を使用したパンを地元の主婦中心に開発した。

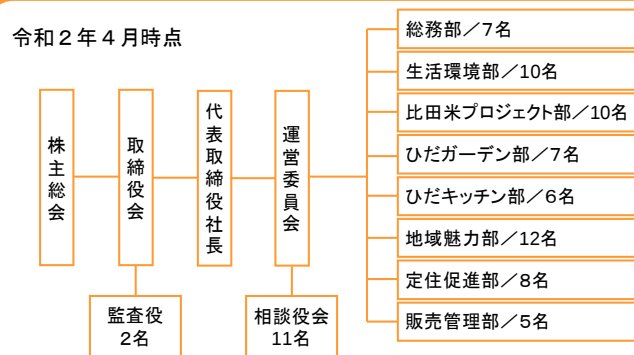


ドレッシングは地元産の野菜を使用し、着色料・保存料不使用の安心・安全な商品。パンは比田産米粉を使用し、週に一度販売。1名が雇用され女性の雇用、活躍の場を創出。

## 体制図

<組織形態> 一体型

令和2年4月時点



## 定住促進の取組

（定住促進部）  
定住相談用パンフレット「え～ひだ定住BOOK」を作成。定住相談会等で活用。



島根県主催の定住相談会等で、移住者の誘致活動を実施。平成29年から令和2年で6組16名が移住。また「え～ひだ女子会」を結成し、地域内外の女性のつながりづくりを実施。

## デマンド交通の推進

（生活環境部）  
デマンド型乗合タクシー等の運行を実施。持続的な仕組みに向けて有償運送へ切替。



通学・通院や買い物をサポート。令和2年度は延べ389名が利用。運行エリア拡大検討中。

# 組織・取組の発展プロセス（活動当初から農林漁業の振興と生活支援等の両方の取組を実施）

## 取組のきっかけ

比田を未来へつなげるために地域内の有志でプロジェクトチームを結成。将来の目指すべき姿を住民一体で考える“地域ビジョン”づくりを提案。  
平成27年、「いきいき比田の里活性化プロジェクト」スタート。  
キーポイントは、地域おこし協力隊の受入れ。

## 取組の成果・今後の展望

当初は、地域づくりを行う株式会社が一般的ではないため、取組に無関心・批判的な状況。地道に活動の趣旨を説明し実績を積むことで、今では多くの方々から理解・支援を受けられるようになった。



## 平成28年 比田地域ビジョンの策定

全世帯・中学生以上を対象としたアンケート、地域づくりや多角的な農業経営の先進事例視察、世代別・全世代ワークショップの実施により、今後10年間の比田地区の取組目標88個を具体化した「比田地域ビジョン」を策定。



ワークショップ

県・市・J  
A・地区内交流センターと連携。

メンバー総勢73名  
（大半が40代）

## 平成28年 任意組織 え〜ひだカンパニー設立

比田地域ビジョン実現に向け、任意組織《え〜ひだカンパニー》を設立。



平成31年、総務省の「ふるさとづくり大賞」団体表彰を受賞。

構成員79名  
（平均年齢48.1歳）

## 平成29年 え〜ひだカンパニー 株式会社として法人化

持続可能な組織となるために、株式会社化。

- 会社化を選択した理由
  - ・人が代わっても継続する仕組み
  - ・社会的信用力の高さ
  - ・社会的責任、株主への責任
- 株式会社を選択した理由
  - ・事業の制約を受けない
  - ・株式出資の形で地域づくりに参加してもらえる

「え〜ひだ定住BOOK」作成。

## 住民の住民による住民の ための株式会社のモデル化

農業生産を『柱』とし、6次産業化の拡大など安定的な財源を確保しながら、持続可能な組織を目指し、環境維持・雇用創出を図る。  
地域運営組織の設立や運営のノウハウを他地域へ普及していくとともに、地域内外へ“比田”の取組の認知度を上げていく。

安来市の補助事業等を活用し農業機械の購入。

## 令和2年～ 小さな拠点づくりにむけて

- 令和2年、島根県の「小さな拠点づくりモデル地区推進事業」のモデル地区に選定
- 令和2年、山の駅「え〜ひだ市場」オープン



## 平成30年～ 取組の推進

ドレッシング、米粉パンの商品開発。



デマンド交通の試験運行開始。

## 基本情報

組織名：え〜ひだカンパニー株式会社  
連絡先：0854-26-4010

所在地：島根県安来市広瀬町梶福留1268番地  
視察の受入：要相談 受入料金：基本料金 2万円、資料代 500円/人

URL：<http://www.dojyokko.ne.jp/~ikiikihida/>

